

# 山陽新聞賞 奨励賞

第78回山陽新聞賞の受賞者が決まった。山陽新聞社が岡山、広島県で文化、社会、学術、産業、国際などの各分野で地域社会に貢献した個人、団体に毎年贈っている。今年は文化功労3人、社会、教育、産業功労各2人、学術功労1人の計10人と、山陽新聞奨励賞の社会部門2団体が荣誉に輝いた。晴れの受賞者を紹介する。

## 輝く10人2団体

### 第78回 山陽新聞賞

山陽新聞社は毎年、文化、社会、教育、学術、産業などの分野で、地域社会に貢献した個人、団体に「山陽新聞賞」「山陽新聞奨励賞」を贈り、功績をたたえています。第78回は山陽新聞賞に個人10人、山陽新聞奨励賞に



2団体が決まりました。受賞者・団体には賞状、メダル（日本芸術院会員蛭田二郎氏制作）＝写真＝と賞金を贈ります。贈呈式は8日に岡山市内で開きます。（受賞者の業績は18、19面に掲載。敬称略）

#### 山陽新聞賞

##### 文化

- 柴岡 信義(備前市)
- 林 陽舟(岡山市)  
＝本名・健一＝
- 東島 毅(岡山市)

##### 社会

- 石川 紘(倉敷市)
- 望月太津友(岡山市)  
＝本名・黒住行江＝

##### 教育

- 福永 仁夫(倉敷市)
- 藤原 修己(津山市)

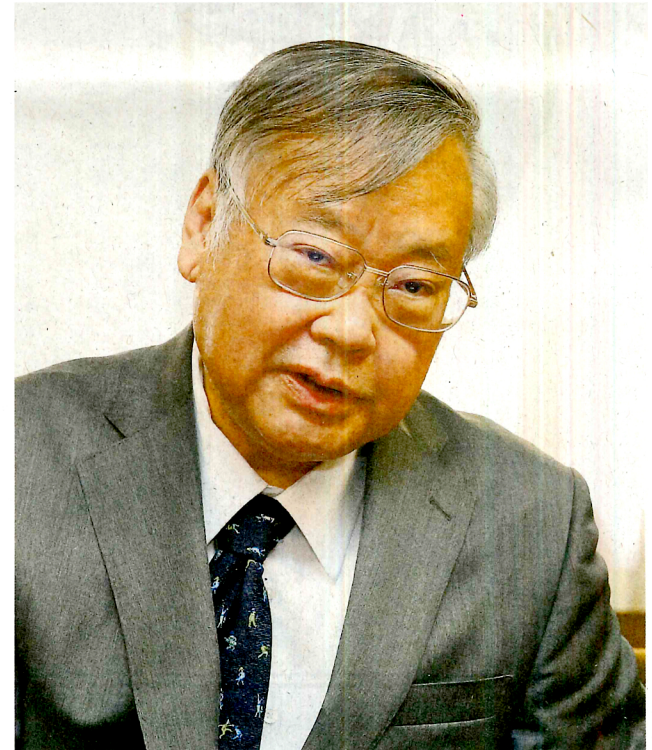
地域への貢献たたえる

山陽新聞社

#### 教育功労

#### 川崎医科大学長

ふくなが まさお  
**福永 仁夫氏(75)** 倉敷市松島



### 「良医」育成に力注ぐ

「人間をつくる 体をつくる 医学をきわめる」との建学の理念の下、全人的医療を実践する「良医」の育成に力を注いできた。「研究者のマインドを持った臨床医を目指してほしい」と考え、学生が2年次に座学を離れて約1カ月間、実験などの研究に没頭し、成果発表まで行うプログラムを2015年度に開始。副学長時代には、地域医療に貢献する医師の養成を目的とした「地域枠」を06年度入学者の入試から導入した。

1970年、京大医学部を卒業し、米国留学などを経て84年に川崎医科大学に着任。89年に教授、09年に学長に就いた。専門は核医学で、放射線を使って骨の強さや構造を調べる「骨塩定量装置」を国内で初めて試作するなど骨粗しょう症の医療水準向上に努めた。

大学は今年4月、創立50周年を迎える。「医師にとって患者が第一であるように、大学にとっては学生が第一。先進的な医学教育を追い求めていきたい」

(河内慎太郎)

#### 山陽新聞奨励賞

##### 社会

- 岡山要約筆記クラブ(岡山市)
- 福山ばら会(福山市)

##### 学術

- 佐藤 和広(倉敷市)

##### 産業

- 利守 忠義(赤磐市)
- 昼田 真三(福山市)